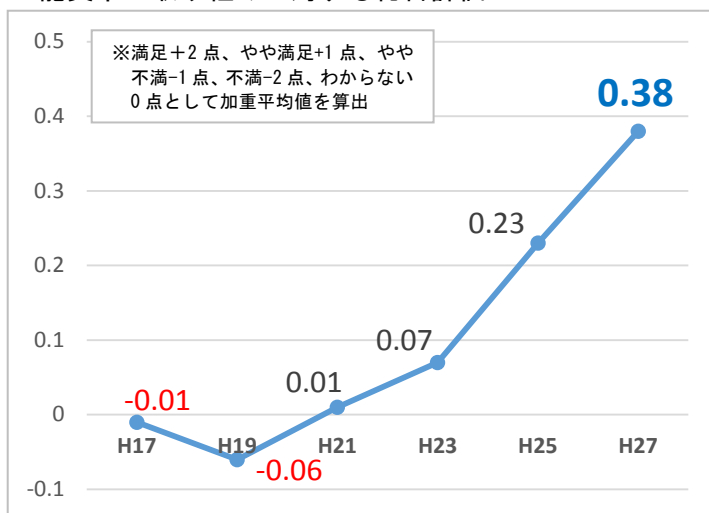


### 3. まとめ

#### ● 全般的に市民の満足度は高く、総合評価の点数は経年的に上昇

- ・第一次総合計画に基づく総合的な施策展開の結果、市民の満足度は全般的に高く、回を追うごとに総合評価の点数が上昇しています。
- ・今後も評価を向上させていくため、子育て支援策や産業集積等の「強み」を伸ばし、生活道路や公共交通、商業環境等の「弱み」を強化していくための取り組みを推進する必要があります。

▼能美市の取り組みに対する総合評価



#### ● 能美市は住みやすく、住み続けたいまち

- ・能美市の住みやすさに対する設問では、性別や年代を問わず約9割の市民が「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答しており、その要因としては「子育てにかかる費用の支援」をはじめとする福祉・教育環境の良さが挙げられています。
- ・また、定住意向に関する設問では、「このまま住み続けたい」との回答が約8割を占めており、20歳代でも「一時的に離れることはあっても、今の地域で住み続けたい」との回答が「他の市町村に移り住みたい」を上回っています。
- ・このことから、能美市は総じて「住みやすく、住み続けたいまち」であるということがいえます。「住みよさランキング2015」（東京経済新報社）では全国第3位となりましたが、市民の評価でも住み良さが実感されていることがうかがえます。

#### ● 「小さな拠点」の形成が求められている

- ・地域社会の問題解決に向けて、市民同士あるいは市民と行政が協力（協働）関係をより深めるために重要なこととして、「地域の人々（市民や行政）が気軽に集まれる場所をつくる」ことが最も多くの回答を集めました（問24）。
- ・本市の人口推計を実施した島根県中山間地域研究センターの藤山浩教授は、今後の人口減少を見据えた持続可能なまちづくりに向けて「ハブ（Hub）とパブ（Pub）」が必要と指摘しています。「ハブ（Hub）」は人や交通が交わる拠点、「パブ（Pub）」は地域の人々が気軽に集まって交流できるパブリックプレイスのことを指します。
- ・今回のアンケート結果からも、このような「小さな拠点」の必要性が浮き彫りとなりました。この結果を「能美創生総合戦略」や将来的な都市構造にも反映し、人口が減っても市民が満足しながら幸せに暮らせるまちへと発展していく必要があります。

## ● 「地域の支えあいのしくみづくり」が求められている

- ・地域やNPO等が主体となった支えあいのしくみづくりの必要性について、性別や年代、地区を問わず「必要だと思う」との回答が9割を占めています（問26）。また、地域でのまちづくり活動の妨げになっていることとしては、「参加者不足」や「時間不足」が指摘されており、地域づくりを担うしくみづくりの重要性が浮き彫りとなっています。
- ・一方で、地域活動やボランティア活動、市民活動に参加していない人が半数以上を占めており、地域づくりに対する市民の機運を高めていくことも重要な施策の一つとなります。

## ● 「公共交通網の再編」が求められている

- ・「公共交通網の整備」に関しては、これまでコミュニティバス「のみバス」の運行や能美根上駅の整備などに取り組んできていますが、満足度が低く重要度が高い施策として区分されており、今後の改善が望まれています。
- ・「のみバス」に関しては、回答者の約9割がこの1年間にのみバスを「利用していない」と回答しており、サンプリング調査の結果ではありますが、利用状況の低迷がうかがえます。また、「あったらいいな」と思う交通手段としては、特に高齢者が「デマンドタクシー」を望む傾向にあり、市内の公共交通に関しては新交通システムを含めた抜本的な見直しが必要となっています。
- ・今後、上述した「小さな拠点」の形成や、「地域の支えあいのしくみづくり」の展開とあわせて、公共交通網の見直し・再編について一体的に検討していくことが求められます。